

踏み跡 <My Mountains>

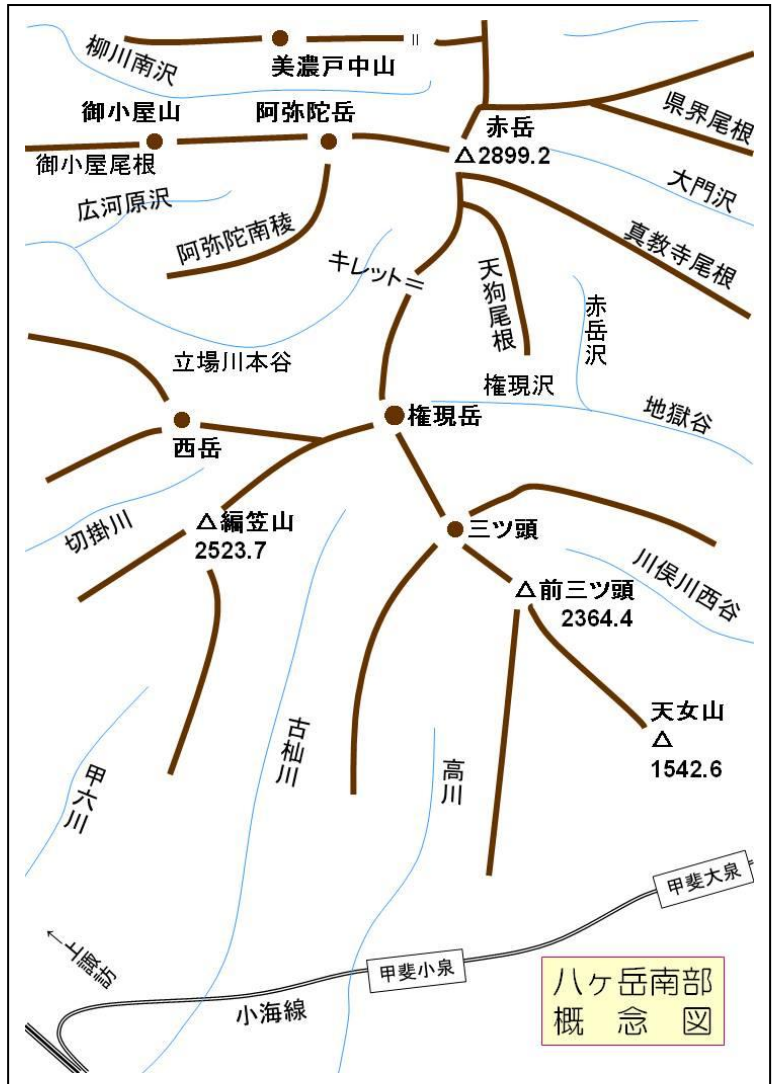
八ヶ岳	天女山から三ツ頭	No.143
-----	----------	--------

八ヶ岳も昭和 41 年夏の縦走から数えて 11 回目になる。ほとんどが冬季だが、主稜線はだいぶ片付いた。これからは東側の杣添尾根や県界尾根と南部の大泉口、小泉口、西岳などを目標にしようと考えた。

また 3000m 級の山はだいぶ塗りつぶしてきたが、2000m 級の山を少しずつ片付けて行こうと思ひ、我が心の内に「2000m 級の山を片付けよう」というキャンペーンを張ることにした。有名な山の中には 2000m 級の山が一番多いこともあるし、やりがいがありそうな目標である。道志、奥多摩と体が随分低山馴れしてきたところだが、ここで久しぶりに冬の八ヶ岳に入り歩き残した尾根をアタックすることに決めた。実はこの山行は、「1 月 16 日の夜行で出て甲斐大泉から入り権現岳でビバークの後西岳をピストンして真教寺尾根を下ろう」という一泊二日のかなり豪華なアルバイト量の計画だった。ところが、どういう訳だったか記憶にないが、17 日の夜行で出発して三ツ頭ピストンのみという計画に縮小された。

昭和 45 年 1 月 17 日
23 時 55 分発長野行。成人の日を過ぎるとさすがに列車が空いている。のんびりと座席を占領して、網棚のピッケルを眺めながら静かに眠気の到来を待つ。

昭和 45 年 1 月 18 日
小淵沢 5 時 02 分。寒い小海線プラットホームでの待ち時間の後、C12 が牽く臨時列車に乗り換え。ディーゼルカーのような気風の良い音を立てて、SL は上り坂の苦しさを素直に表現しながら登って行く。これは小海線の楽しみの内のひとつである。ディーゼルカーのほぼ二倍の時間をかけて、甲斐大泉に 6 時 11 分に到着。甲斐大泉の朝は、シルエットのように山並みが浮かび上がるところから始まり、(右の写真) やがてそれが富士山の円錐形を中心に屏風絵のような広がりとなって楽しませてくれる。しかしこの南アルプスや奥秩父の山々も皆甲斐大泉駅の素朴な駅舎と一緒になければ味がない。軽い食事をとって、6 時 40 分に出発。天女山まではハイキングコースの眠くなるような道。南アルプスの山々が段々にはっきりと襲を見せてくる山の朝。天女山 7 時 40 分。入笠山、釜無山あたりを右手に鋸岳、左に首



踏 み 跡 <My Mountains>

を回して行くと甲斐駒、早川尾根と一層白い北岳、頭だけ白い鳳凰三山。さすが天女山はハイキングコースになっているだけに良い眺めが得られる。

(前頁下の写真：天女山から八ヶ岳主要部を望む)

(右の写真：鳳凰三山・早川尾根・北岳・甲斐駒)

まだ醒めきらない目にこの冷たい冬景色の壮大さは実に良い目覚め薬になる。

20分ほど周囲の景色を眺めたあと出発。甲斐駒にかかる雲がわずかに気がかりだが、いずれにせよ日帰り登山なのでどこでUターンしても良いのが気楽である。八ヶ岳でも南部でありしかも南面の尾根のせいか、樹林に入るまでは気になるような積雪はない。歩くと体が温かくなり眠くなりやすい。しかし休むと結構寒い。

そんなことの繰り返しの中にいつか山頂に立つことになる。登山とはそんなものかもしれない。

三ツ頭には13時45分に到着。予想以上に時間がかかってしまった。心配したとおり雲量が増えてきた。

天気は下り坂のようではあるが、まだ富士山も視界の中にある。左右に柔らかな曲線で裾を広げた富士は、この地方からならではの眺めだろう。

例によって下りは猛スピード。途中で富士山の写真を数枚撮って天女山に15時帰着。

これで大泉口登山路に赤い線が塗られて、「2000mを片付けよう！」のキャンペーンは無事スタートした。

以上

